

## 令和7年度 第4回豊田市市民活動促進委員会記録

|     |  |
|-----|--|
| 日 時 | 令和8年1月28日（水） 午後7時から午後8時半まで   |
| 場 所 | とよた市民活動センター  |
| 出席者 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●委員（敬称略、会長・副会長以外50音順）<br/>鬼木利瑛（会長）、有我都（副会長）、岩田雅子、亀井祥子、鈴木萌芽、谷口功、都築朗、戸田友介、長谷川和哉、三島知斗世 以上10名</li> <li>●事務局<br/>地域交流課 課長兼とよた市民活動センター所長 杉浦<br/>とよた市民活動センター 近藤</li> </ul> |
| 傍聴者 | なし   |
| 欠席者 | 秋山聖、伊東浄江、鈴木友喬  |

### 議事

#### 【議題】スローガンに続くストーリー、重点プロジェクト再考

事務局説明を行った後に議論を行いました。

##### (1) スローガンに続くストーリーについて

|     |  |
|-----|--|
| H委員 | 個人としての意見ですが、相手の立場から考えるという点が重要だと思っています。実際に相手の立場に立つことは本当に難しいと実感していますが、お互いの違いを認めるということは、そういうことなのだと最近感じています。   |
| J委員 | ストーリーにある心がウキウキ、わくわくという表現についてです。課題解決だけでなく、やりたいことを広げるという転換には賛成です。しかし、一方で放っておけない問題があるという視点も重要だと思います。「ウキウキ」と「わくわく」は似たニュアンスですので、例えば「ざわざわ」や「ウキウキ」のように、放っておけないといったニュアンスをどこかに入れると良いと感じました。少し異質な要素を入れてしまったかもしれませんが、ボランティア活動の本質として、大変なことがあって「放っておけない」と思うことや、家族の事情などから「何とかしなきゃいけない」と思うことは非常に重要な要素です。そうした意味で「ざわざわ」という言葉を使いました。 |
| A委員 | D委員は市民活動を立ち上げた際、どうでしたか。  |
| D委員 | モヤモヤやざわざわから始まりました。ただ、ここに入れると重くなりすぎる気がします。でも、そうした感情から始めた人は多いので、良い形で入れられると良いですね。   |
| H委員 | 擬音ではなく、あなたの心が動くのようにはどうでしょうか。今回のスローガンの特徴である私から始まるを活かし、心の中身を並べるより「心が動く」とシンプルにする案です。  |
| F委員 | 豊田市の市民活動が共有すべき豊田らしさが欲しいですね。都市  |

|      |  |
|------|--|
|      | と農山村の共生や、合併の歴史、企業との広がり。17年間の広がり象徴するようなワンフレーズがあると、より伝わると思います。   |
| A 委員 | 確かに、他自治体でも当てはまる内容になりがちです。豊田のユニークさ、企業の存在などを表現できると良いですね。企業の立場からI委員はいかがですか。   |
| I 委員 | 共感を得るためにはシンプルなほうが良いと思います。色々詰め込むと、言いたいことがぼやけてしまいます。たてつけはストレートで分かりやすいものが一番です   |
| C 委員 | ざわざわという言葉には賛成です。困っていることを解決する力は大きいです。また、指針の最後の助けてと言える信頼関係や寛容さといった表現も盛り込みたいです。自分から始まって繋がっていく醍醐味、助け合いの中で生まれる温かさを表現できたらと思います。                              |
| B 委員 | 私もモヤモヤから活動を始めました。課題解決を楽しく愉快地やることで、人に伝わり、交流が生まれます。自分のためが人のため、地域のために広がっていくのが豊田の市民活動の良いところだと思います。心が動くという言葉は良いですね。   |
| F 委員 | 課題解決や地域課題という言葉は、次の指針ではあまり使わないほうが良いと考えます。合併後の20年、市民が課題解決の担い手として期待され、しんどさを感じている面もあります。特に最近探究学習などでも課題解決がパターン化され、疲弊しています。それよりも広がっていく楽しさを前面に出すべきです。         |
| B 委員 | F委員のおっしゃること、よく分かります。書類を出す際に何度も「課題解決は？」と問われ、心が折れそうになることがあります。言葉を使わなくても繋がれるし、結果として解決に繋がれば良いのだと思います。  |
| 事務局  | 税金を使う身として、つい説明を求めてしまいますが、反省する面もあります。   |
| F 委員 | SDGs 疲れもありますね。言葉が目的化してしまうのが一番しんどいです。「海賊王に俺はなる」のように、自分がどうなりたいかという意思に人は惹かれます。そうした根本的なストーリーがあると良いですね。   |
| E 委員 | スローガンは分かりやすく良いです。ストーリーはキーワードがたくさん入っていますが、パッと見た時に少し重いと感じました。なぜかは自分でもまだ分かりませんが。企業の方にこのスローガンは伝わるかということ、具体的に何をすればいいか分からない、と思う企業が多いかもしれませんし、伝えきる自信がまだありません。 |

|      |   |
|------|---|
| H 委員 | センスのある経営者には伝わると思います。私から始まるというパーソナルな価値創造は、これからの大事なテーマです。                               |
| I 委員 | 100%全員に理解してもらうのは不可能です。本質が分かっている人には伝わります。1人でも2人でも共感してくれる人を増やしていく、という気持ちで良いのではないのでしょうか。 |
| 事務局  | 企業向けのサイドストーリーを作る必要があるかもしれませんがね。これは次の宿題にします。   |

## (2) 重点プロジェクトについて

|      |  |
|------|--|
| H 委員 | このプロジェクトは、センターが行う補助事業などのことでしょうか。   |
| 事務局  | センターの事業だけでなく、他団体が取り組む際にもこのプロジェクトに紐付けて予算をつけていくことも含めて、全体として市民活動を支えるイメージです。       |
| H 委員 | わくわく事業などの地域活動にも、この指針が横串で刺さっていくと良いですね。  |
| 事務局  | 同じ課で担当しているので、整合性を取れるよう参考にさせていただきます   |
| G 委員 | ストーリーのフレーズを名前に使うのはどうでしょうか。個人は「心から始まるプロジェクト」、組織は「共に踏み出すプロジェクト」、社会は「認め合いプロジェクト」。 |
| A 委員 | さすがプロですね。「共に踏み出す」は心強いです。   |
| J 委員 | 「響き合う」という言葉も、三つ目を表すのに良いかもしれません。  |
| D 委員 | 「助ける」という言葉は、上下関係を感じるので削ってほしいと思っていました。「共に踏み出す」は非常に良いです。                         |
| F 委員 | トヨタの方にとって創意工夫という言葉はアレルギーがありますか。市民活動の面白さは、やらされ感ではなく、自分で描いて実行する創意工夫にあると思っています。   |
| I 委員 | 改善や創意工夫は、活動の面白さに繋がるポジティブなものとして捉えて良いと思います。                                      |

## 閉会

|      |  |
|------|--|
| G 委員 | 1年間ありがとうございました。今回、計画ではなく指針という形でストーリーを作る作業に携わりましたが、これまでにあまり例のない試みであったため、当初はどう進めていけばよいか、具体的なイメージが湧きませんでした。<br>しかし本日感じたのは、あえてぼんやりとしたストーリーを提示することで、それぞれが模索しながら考え、自分なりの結論を導き出すというプロセスこそが重要なのではないかとということ |
|------|--|

|      |  |
|------|--|
|      | <p>す。これまでは、明確な指示や方針を出す方が分かりやすいと考えておりましたが、こうした訴え方もあるのだと非常に勉強になりました。私は中間支援組織である社会福祉協議会におりますので、今回の学びを組織の中でも活かしていきたいと考えております。来年度も引き続き、異動がなければぜひ参加させていただきたいと思っております。</p>  |
| E 委員 | <p>1 年間ありがとうございました。今年度から初めて参加させていただき、大変勉強になりました。自分自身、なかなか意見を述べるのができず力不足を感じておりましたが、昨日、F 先生からも多くのことを学びましたので、来年度は G さんのように良い言葉を発信できるよう、研鑽を積んでまいりたいと思います。</p> <p>また、本指針のスローガンにある通り、豊田市は何かを挑戦したいと思ったときに、環境や場所、そして人が応援してくれる街だと感じています。何かを始めたいという方が実際に一步を踏み出せるよう、私自身も仕事に励んでまいります。</p>  |
| H 委員 | <p>社会課題の解決やそれに向き合う姿勢について、世の中には多くの論調がありますが、先ほど申し上げた通り、自分から始まるという視点は、最近特に重要だと感じております。一人ひとりが自分自身の視点で地域や社会を読み解き、表現し直すことこそが、社会が変わっていく原動力になるのではないのでしょうか。</p> <p>自分とは切り離された課題や他者が存在するのではなく、自分から物事を捉え直し、ストーリーを再構築することが価値創造に繋がると感じており、この方向性に大きな可能性を感じています。</p> <p>私は一般社団法人おいでん・さんそんとして、都市と農山村を繋ぐ活動をしておりますが、農山村は課題先進地であり、従来のやり方では限界があります。そのため、新しい切り口で取り組んでいきたいと考えております。来年度もよろしくお願いいたします。</p> |
| J 委員 | <p>1 年間ありがとうございました。立場や経験の異なる方々と話し合いを重ね、それを一つのストーリーにまとめていくプロセスは非常に楽しく、当初自分が考えていた以上に視野が広がる良い経験となりました。多様な読み解き方ができることで、結果として活動に多様性が生まれれば良いと考えております。また昨日、ネットワークとプラットフォームの違いについて話をしておりました。地道な活動を積み重ねていくネットワークも大切ですが、それとは別に、誰もが自由に入出りできる緩やかなプラットフォームも必要です。市民の皆様に対しては楽しさやあなたから始まるといったメッセージをシンプルに伝えつつ、その両面を大切に関わっていききたいと考えております。</p>  |
| D 委員 | <p>1 年間ありがとうございました。当初は自分に意見が言えるだろ</p>  |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>うかと不安に思っていました。最終的にまとまったスローガンは、非常にふさわしいものになったと感じています。ストーリーについても、今の形をさらにブラッシュアップしていければと思っています。私の市民活動における目標は、ボランティアや市民活動を趣味と誰もが誇りを持って言えるような社会にすることです。再びこのような形で関わらせていただけることを嬉しく思います。よろしく願いいたします。</p>  |
| B 委員 | <p>1 年間ありがとうございました。今年度から計画が「指針」に変わるということで、そこに込められた並々ならぬ思いを感じました。これまでの会議は評価を確認するような印象がありましたが、本指針が「羅針盤」となることで、いつでも軌道修正ができ、失敗をチャンスに変えていけるようなものになると期待しています。また、一人でコツコツ活動する方もいれば、交流を求め方もいらっしゃいますが、どの形も市民活動であることに変わりはありません。形式にとらわれず、心が動くことで豊田のまちが楽しくなっていく、そのような形ができていくことを願っております。</p>   |
| C 委員 | <p>1 年間ありがとうございました。最初はどのような展開になるのか緊張しておりましたが、全 4 回の会議を通じて、皆様の熱意あるお話を聞くことができ、この場に参加できたことを大変ありがたく思っております。私たちが支援しているのは非常に小さな活動団体ですが、その中にある「みんなで無理なく工夫して」という標語を掲げ、長く活動されている団体が私はとても好きです。支援する立場として、このスローガンを携え、どのような小さな活動であっても「これも市民活動である」と認め、応援していけるよう努めてまいりたいと思います。</p>  |
| I 委員 | <p>皆様の多種多様な意見に感銘を受けました。私個人としては、市民活動に対して「こうあるべき」といった強い固定観念を持っていたわけではありません。SDGs や企業の社会貢献といった枠組みで捉えるよりも、目の届く範囲で自分にできることを行うという、シンプルな考えを大切にまいりました。</p> <p>そのため、こうした指針策定の場において、確固たるポリシーを持たない自分が発言することに難しさを感じていた部分もありましたが、皆様の多様な立場からの思いや考えに触れることで、非常に多くの学びをいただきました。今回の議論を通じて、市民活動の本質について理解を深め、改めて意識することができたと感じております。今後は、ここで得た気づきを自社の社会貢献活動にうまく結びつけていきたいと考えています。社員が一人でも多く活動の趣旨に共感し、主体的に参加できるような環境づくりに努めてまいります。また、私個人としては 60 歳を過ぎ、嘱</p> |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>託社員として今後の人生を考える時期にあります。会社の担当者としての視点だけでなく、一人の個人として退職後にどのような歩みを進めるべきについても、皆様のお話は非常に参考になりました。来年度も引き続きメンバーの一員として研鑽を積み、自らの思いも少しずつ発信していければと考えております。今後ともよろしく願いいたします。</p>  |
| F 委員 | <p>私からは、感想を含め 3 点お伝えいたします。</p> <p>1 点目は、やはり条例を改正しなくてよかったということです。何でも制度化するために条例を変える必要があるわけではなく、現行の枠組みの中でもここまでできるのだということ、事務局の皆様も改めて実感されたのではないのでしょうか。</p> <p>2 点目は、評価に関わる部分ですが、ストーリーからナラティブへの転換です。指針として全体のストーリーは提示しましたが、重要なのは個々の活動者が私を主語として、自分を中心に活動を語れるようになっているかという点です。それが一番の評価に繋がると考えます。たとえ一人であっても、自分はこのようなことをしたのだと語る人が見えてくるならば、それは十分に成果として繋がったと言えるはずで。</p> <p>ストーリーとナラティブは、日本語に訳せば共に物語となりますが、あえて使い分けるならば、個々の市民が自らのナラティブを構築できているかどうか、評価の指標になると考えております。</p> <p>3 点目は、市民活動センター自身のナラティブについてです。センターが今後どのように変容し、どのようなビジョンを描こうとしているのか。ルーティン業務を遂行するだけでなく、センター自体がどう変わっていきけるのかが、次のステップになると考えています。これまでの 17 年間、評価の軸は量や数に置かれてきましたが、かねてより申し上げている通り、今後は質をいかに評価するかが重要です。その質の評価こそが、先ほどのナラティブという概念に繋がっていくのだと考えております。</p> |

(1) 議事録確認のお願いをしました。